



【平成16年2月定例県議会一般質問】平成16年3月8日 行政改革、地域活性化、教育について質問を行う

■ 昨年の4月29日からスタートした私の議員生活もはや一年が経過致しました。ここではこの一年の集大成ともいえる平成16年2月定例県議会の一般質問内容を中心に活動の一端を報告したいと思います。

■ 私は、質問原稿の作成にあたり、「民間の発想と県民・市民の感覚」をキーワードに掲げ、昨年の選挙戦で訴えてきた自らの理念や政策を現行の県行政にあてはめ、初めての一般質問に臨みました。主要な質問と加戸知事をはじめとする理事者の答弁内容は以下の通りです。

「去年今年貫く棒の如きもの」行政改革について

Q 県政改革の県民への理解と協力

県民総ぐるみでの県政改革を進めるため、知事自らが県内各地に出向き、多くの県民に改革の内容や今後の愛媛県の方針について理解と協力を求める事が必要と思うがどうか。

A 加戸知事答弁

知事就任以来、可能な限り地域に出向くと共に、各種委員会や行事にも参加し、県政の諸課題やその取り組みについて理解促進に努めてきた。新年度からは、県民と直接語り合う事の出来る事業「こころにこころ」知事では「運営を」一歩進め、愛と心のネットワークづくりを「広く県民に直接語りかける場」とする方向で検討してまいりたい。

Q 「民間度チェック」の導入

改革中である本県の行政改革の進行度合をどのように分析されているのか。又、横浜市が行政改革の一環として取り組んでいる「民間度チェック」の導入を検討してはどうか。

Q 公務員の意識改革

若手職員の政策提案を取り入れる制度や職員自らが希望する業務に直接応募出来る制度を公務員マインド改革の観点からどのように評価し、今後、制度の拡充を含め、職員の意識改革にどのように取り組むのか。

地域経済活性化対策について

Q 四国四県の協働による観光振興

観光振興について、「S.Lの復活」や「四国食のフェア」等を含め、四国四県が協働出来る事業をどのようなものと捉え、今後、四県の協働をどのように進めていくのか。

A 加戸知事答弁

島国である四国は、そこからは一体と見られており、高速道路網の整備が進む中で、県境を越えた交流が益々活発になっている事から、一県単独では、なし得ない事業や類似のものでも四県が取り組んだ方が効果的なもの、或いは四国全体を舞台としたスケールメリットを活かせる事業は、四県協働が望ましい。又、「S.Lの復活」については、四県とJ.R四国による実務者レベルの検討を進めている所であるが、今後共、四国が一体となって取り組むべき施策については、協働・連携し、事業の効果的な展開に努めたい。高、衛門三郎以来、1200年続いた「いやしの心」は四国観光誘致の大きな「てこ」になるので、自然景観、新鮮な食材と相並んで全国に発信していきたい。大きなインパクトにしたい。



加戸知事と【愛媛県議会海外視察団】平成15年11月15日 ブラジル視察訪問、城戸農園にて

Q 起業支援の機能強化

起業支援の制度や内容を県民に対し、タイムリーに活用してもらうには、住民と最も身近な市町村との連携により、幅広く情報の提供を行う事が必要と考え、今後、市町村との連携を含め、起業支援の機能強化にどのように取り組むのか。

Q 「愛と心のネットワーク」

第二次県政改革プランの大きな柱である「愛と心のネットワーク」のモデル事業が予算化される。本事業を過疎地域や商店街の空き店舗対策の活性化にどのように連動させていくのか。



県議会サマースクール 平成15年8月28日 韓国の大学生と

Q 造船業界の人材育成

今治の経済の空洞化は加速度を増し、県内においても相対的な地位低下をきたしている。今治市の地場産業の一つである造船業は、今や世界のシッピングセンターと言われるまでの成長を遂げた。しかし、業界では、労働者の高齢化と共に技術者不足の問題が慢性化しつつある。県はこうした職種需給のミスマッチをどのように認識し、今後、造船業界の人材育成に対する支援措置をどのように講じていくのか。

A 経済労働部長答弁

今治地域における造船関係職種の求人倍率は依然、高水準で技能や経験を有する人材不足が続いている。本県の主要産業である造船業が将来的に発展していくためには、人材の育成確保が重要な課題である。現在、今治市が中心となって造船関係の人材育成機関の設立の可能性を検討している。県としては、こうした取り組みの動向も見守りながら、人材育成策を検討してまいりたい。



さくら醤油製造会社視察 【愛媛県議会海外視察団】平成15年11月14日 ブラジル視察訪問



四国四県議会議員野球大会 平成15年6月7日 ほっちゃんスタジアムにて

Q 児童生徒の学力向上

新学習指導要領により、学習内容が大幅に削減され、学校週5日制に伴う、授業時間の減少、教員の指導力低下などから、児童生徒の学力低下が懸念されている。県は、児童生徒の学力の現状をどのように認識し、今後、学力向上にどのように取り組むのか。

A 教育長答弁

学力と学習意欲の低下への懸念が学校現場や保護者からも指摘されている。県では、小中学校において、学力調査を実施し、習熟の程度を把握すると共に、「確かな学力」の向上を図る手立ての実践研究を行い、高等学校においては、学習意欲を高める狙いとして、県立高校40校で希望者を対象に夏季休業中に、学習習慣を身に付けさせるトライアル合宿の実施を行うなど、「学びのすすめ推進事業」を実施する予定である。又、これまで以上に授業の鉄人制度を導入し、教員全体の指導力アップを図るなど、「確かな学力」の向上が図れるよう積極的に支援してまいりたい。

総括

県内をはじめ、国内各地やブラジル、米国ハワイ州への海外視察を行うなど、自らの目や耳で、又、足で歩いて学ばせていただいた財産は、この一年で数多くになりました。皆様への情報公開はもちろんの事、議員としての政策の立案にも大いに参考になりました。2年目の今年も「今の自分より少しでも大きな木」に成長できる様、日々、研鑽に努めてまいりたいと考えております。

徳永しげきへの励ましの言葉

徳永しげき議員 岡田 志朗

開れて県議生活2年目に突入された徳永しげき君に、お祝いとお励みの言葉を贈ります。振り返ってみると、私も県議議員になりました。早くも1年が過ぎようとしています。当時、私は政治の世界には全く、最初の感想は「多種多様なタイプの方々があられ、県議会は博物館みたいだな」というものでした。私のような後進者の青年がまともにやっていけるのか、正直不安でいっぱいでした。そんな中、選挙区の代表として議員をさせていられる以上は「誇り」を覚悟することなく、「自分自身の信念に基づいて、地域のため、県政発展のために努力することだけを考えて頑張らなくては、支持者の皆さんの負託に恥ずかぬことになるのだ」と思えるようになりました。

また、情報公開も大切です。如何に自分にとっては信念に基づいた正しい行動でも、支持者の方々への説明責任を果たしておかなければ「ごまかしの罠」になってしまう場合があることを自覚しておかなければなりません。「徳永しげきホームページ」を見れば、「やま」が溢れ、また情報公開への努力に、とても安心いたしました。私も負けないように頑張らねば。

最も大切なことは、ご支援いただいている方々に安心していただくことだと思います。それは「ひとりで多くの方々に『徳永しげき』を知っていただき、支援の輪を広げること」に尽きると思います。

徳永しげき君と後援会の皆様方との今後益々の活躍を祈念して激励の言葉といたします。

愛媛県議会議員 白石 徹

私が県議とほじめて会ったのは、1年前の彼の初当選の後、登壇した時でした。ほんの4年ではあります。議員としての先陣を担って彼に面対した私は、話を始めると同時に、彼の愛国心に引き込まれてゆく感じがして、思えば「彼」は、本音で付き合っていくべき人だと思えます。人にはさまざまなお付き合いがあり、その時の場面が、その二人の関係に大きな影響を与えてゆくのだとすれば、私にとって彼の出会いには、生涯の友を得た感じがしました。その真実なまなざしの際には、熱い情熱を感じ、単刀直入に話を切り込んでくることも、逆に私にこのころよさを与えてくれました。同僚の政治家として一緒に何かがやりたいていという気持ちを抱かせる人だと思えます。彼は接する人の多くを前向きな気持ちで受け入れてゆく力を持っていて、その力、ひいては地域全体を鼓舞するに等しいことだと思います。

徳永しげき君からの政治活動に大いに期待をする友人として、筆を執りました。徳永しげき君、頑張ってください。